

第3次恵那市地域計画（案）

自治区名	岩村 地 域 自 治 区
------	--------------

【地域の現状】

岩村町には、日本百名城に認定され、日本三大山城でもある「岩村城跡」と国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された「岩村町本通り」、農村景観日本一の称号を持つ「富田地区」など、『歴史的価値の高い観光資源や豊かな自然環境』に恵まれたまちです。

また長い歴史の中で多くの偉人も輩出しており、幕末の儒学者である「佐藤一斎」や実践女子学園の創設者である「下田歌子」、植物学者の「三好学」など、その教えを継承した取り組みなど推進してきた『文教のまち』でもあります。

令和元年度には、佐藤一斎先生の教えを生かした取り組みとして実施してきた郷土学習「自分とふるさとを愛する子を育てる『岩村プラン』」が、地域学校協働活動において優れた成果を収め、社会総がかりでの教育実現に貢献したことが認められ文部科学大臣賞を受賞しました。

観光面では、岐阜県が取り組んできた地域が誇る自然や歴史、文化等の資源を掘り起こし、全国に通用する観光資源として磨き上げる「岐阜のものの認定プロジェクト」の中で、平成20年度には「岩村城跡と岩村城下町」が『じまんの原石』に、平成23年度には『明日の宝もの』に選定されました。さらに平成29年度には東美濃の山城として苗木城跡と美濃金山城跡とともに「岩村城跡と岩村城下町」が『岐阜の宝もの』に認定、令和5年度には、世界から選ばれる旅先となり得る地域・観光プログラム「NEXT GIFU HERITAGE～岐阜未来遺産～」に『恵那岩村の山城・城下町と農村景観めぐり』が、岐阜県の第1号として認定を受けました。

内外から評価を受ける反面、市内他地域と同様に少子高齢化や人口減少といった課題にも直面していますが、先人の先駆的な取り組みや地域の魅力を最大限活かしたイベントの開催などにより、まちの活気や活力は維持しつつ、まちづくりは継続されています。しかしながら、持続可能なまちづくりに必要となる自己財源の確保や人材の確保・育成などが追いついていない状況があるため、課題解決に向けた取り組みが急務となっています。

【キャッチフレーズ】

“消滅しないぞ いわむら”
～自然とともに人が輝き、人が財産となるまち～

【目指すべき地域の姿(地域の全体構想)】

○ちょうど良い町を目指す ～住民と来訪者、双方にとって快適なまち～

1. 地域の課題解決に真っ向から取り組むまち
 - ・継続的な課題対策に伴う検証と新たな課題を拾い上げ、今後の将来像を見出します
2. 持続可能な観光を目指すまち

- ・中長期的な観光まちづくり指針として策定された「いわむらグランドデザイン※¹」の進捗管理や「フィールドミュージアム化※²」構想の具現化へ取り組みます
3. 子どもから高齢者まで生き活きと暮らせるまち
- ・「岩村地区福祉計画」に位置付けられた事業の進捗管理を実施します
4. 安全・安心に過ごせるまち
- ・地域共生社会づくりの実現を目指し、将来にわたり住み続けられる仕組みを構築します
5. 循環型社会を見据えたまち
- ・資源を大切に使う、再利用するといった観点から特に地域内で資源がサイクルする方策を展開します

【計画の柱(基本目標)】

計画の柱1. 地域課題の把握と解決に向けた取り組み

直面する喫緊の課題として避けては通れない「人口減少」に対し、岩村らしい移住者の受け入れ体制の構築や元々住んでいた地域住民があらためて住んで良かったと思える地域独自の対策を展開していきます。

「人口減少」は地域の存続にも関わる大きな課題ではありますが、それ以外の課題も拾い上げ、出来ることから実行に移していきます。

計画の柱2. 持続可能な観光まちづくりの推進

岐阜県より世界から選ばれる観光地となることが期待できる未来の「デスティネーション※³」として『岐阜未来遺産』に認定されたことを受け、将来にわたり持続可能な観光地となるよう取り組みを展開していきます。

地域だけの取り組みでは限界があるため、官民協働により「観光地いわむら」を更にブラッシュアップ※⁴していきます。

計画の柱3. 子育て世代や高齢者への支援

少子化が進む中、子育て世代が住みたいと感じられる環境整備を行政とともに取り組んでいきます。

また高齢化の進展により老々介護などの課題が顕著となるなか、より一層住民同士で支え合える仕組みの構築を目指していきます。

計画の柱4. 地域共生社会づくりの実現

制度・分野ごとの縦割りや支え手、受け手という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が、世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域とともに創っていく社会の実現を目指していきます。

また各地域で問題視されている「自治会加入率」の低下に関しても、共生社会を構成するうえで重要な要素であるため、自治会未加入者へ理解を求めています。

計画の柱5. SDGs※⁵の推進

持続可能な開発目標（SDGs）は、貧困や不平等・格差、気候変動などのさまざまな問題を根本的に解決することを目指す世界共通の17のゴールと169のターゲットで構成された国際目標です。令和4年度に恵那市は「SDGs 未来都市」を宣言しているため、地域としてもSDGsの推進に向け、積極的に取り組んでいきます。

特に『歴史的価値の高い観光資源や豊かな自然環境』を後世に残していけるようパートナーシップ※⁶で目標を達成していきます。

【基本施策】

計画の柱１．地域課題の把握と解決に向けた取り組み （１）人材確保【育成】 まちづくりの担い手の確保や次世代の人材を育てる取り組みを展開します。また他地域との文化や人材の交流を深めるとともに、移住者にも関わってもらう仕掛けを構築していきます。 （２）空き家対策 いわむら空き家対策委員会を中心として、具体的な取り組みを推進します。特に岩村城下町と田園地帯では空き家に対するニーズが異なるため、貸（売）主と借（買）主のマッチング方法を確立していきます。 （３）郷土愛を育む【地元を誇りを持つ】 郷土の先人の教えや歴史を学ぶ機会を設け「郷土愛」を育む取り組みを推進していきます。 （４）若者が地元で活躍できる仕掛けづくり 官民協働による雇用の創出や地元を離れても帰ってきたくなるイベントなどを企画していきます。 （５）地域おこし協力隊員の導入 ※新規 恵那市では、５年振りに「地域おこし協力隊」の導入がスタートしたため、岩村地域においては『持続可能な観光』の旗振り役となるような人材に特化した形で隊員の導入を目指します。	取組期間
計画の柱２．持続可能な観光まちづくりの推進 （１）いわむらランドデザイン～観光まちづくり指針～の進捗管理 指針に位置付けられた事業の進捗管理を実施しつつ、時代にマッチした新たな取り組みも展開します。 （２）フィールドミュージアム化^{※２}構想の具現化 第２期恵那市歴史的風致維持向上計画^{※７}で定める風致範囲を構想の対象として屋外博物館としての定着を目指します。 （３）岩村城跡・飯羽間城址の保存と景観対策 岩村町のシンボルである「岩村城跡」の国指定史跡を目指すとともに、山城として存在価値の高い「飯羽間城址」もブラッシュアップ^{※４}していきます。 （４）外国人の誘客対策 岐阜未来遺産の認定を受け、インバウンドの増加が見込まれることから受け入れ態勢を強化していきます。 （５）新しい観光資源の活用・リピーター対策 山城をキーワードとした広域連携や観光地いわむらに何度でも訪れたいくなる仕掛けづくりを展開していきます。 （６）体験プログラムの充実 「いわむら五っこ」を観光客向けの体験コンテンツとして充実させ、岩村らしい体験プランを提供し、滞在時間の延長に繋がります。 （７）国際認証の取得に向けた取り組み ※新規 世界から選ばれる観光地として認知度を高めるためにも国際的な観光認証制度「Green Destinations^{※８}」の TOP100 の取得を目指します。	

計画の柱3. 子育て世代や高齢者への支援

(1) 岩村地区福祉計画の進捗管理

計画に位置付けられた事業の進捗管理を実施し、時代にマッチした新たな取り組みも展開します。

(2) 子ども同士や地域住民との交流機会の創出

地域学校協働活動本部を中心に「学校を核とした地域づくり」を目指して、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して様々な活動を行います。

(3) 多目的広場（公園）の整備 **※新規**

防災の機能やイベント広場などの機能を併せ持つ公園整備を小学校やこども園に近い場所で検討していきます。

(4) 学童施設のあり方検討と整備 **※新規**

地域内に2ヶ所ある学童施設が小学校から離れているため、利用者が安心して通える場所での施設整備を検討していきます。

(5) 高齢者のための支援体制の構築 **※新規**

高齢者世帯での「ちょっとした困り事」に対応するため、恵那市社会福祉協議会岩村支部との連携により支援体制を構築していきます。

計画の柱4. 地域共生社会づくりの実現

(1) 地域コミュニティの再構築

自治会の加入率が市内でも低く、地域内での相互の関係性が希薄化する中、防災などを切り口として、自治会未加入者に対し、理解を求めていく取り組みを推進していきます。

(2) 交通手段の確保

恵那市で運行している「岩村デマンド交通」の更なる利用者の拡大と利便性の向上を図り、交通弱者の対策を図ります。

また地域からタクシーが撤退したため、行政とともに対策を協議します。

(3) 住みやすい環境の確保

防災や減災に強いまちを目指し、自主防災組織である岩村町自主防災隊を中心として「岩村地区防災計画」に沿った取り組みを推進します。

特に伝建地区^{※4}の防火対策は、景観を維持するうえで、非常に重要であるため、「伝建地区防災計画」に位置付けられた取り組みを展開します。

(4) 心と体の健幸

岩村町スポーツ協会などを中心として体力づくりの取り組みを推進します。また恵那市が推奨する各種健診を含む健幸事業への参加を促していきます。

(5) 自動運転実証実験の推進 **※新規**

次世代の交通手段として期待される「自動運転レベル4」の社会実装を目指し、恵那市とともに取り組みを推進していきます。

(6) 【仮称】岩村地域ポイント制度の確立 **※新規**

ボランティア活動に参加した対価として、地域限定のポイントを付与し、粗品に交換できる仕組みを構築することでボランティアの確保に繋げていきます。

計画の柱 5. SDGs の推進

(1) 資源回収拠点施設の利用促進

地域でのまちづくりや学校活動における重要な財源となりつつある「城下町クリーンステーション」の収益金を増やす取り組みを推進していきます。

(2) 地域内の環境美化（町内一斉清掃、井浚）の推進

岩村地域の豊かな自然や素晴らしい景観を保全する取り組みの一環として岩村町自治連合会が主体となり、毎年「町内一斉清掃」が実施されているが、草木の除去だけではなく井浚作業に取り組む仕組みも構築していきます。

(3) 既存施設（福祉センター風呂など）の利活用の提言と実践 **※新規**

活用しきれていない公共施設や町家などを官民協働で利活用できるような方をまとめ実践していきます。

また岩村地域自治区からの提言により整備が実現した「まなぶ拠点施設^{※10}」の利用促進や施設のPR活動などを施設管理者とともに取り組みます。

(4) 豊かな自然環境の保全活動 **※新規**

農村景観日本一の称号を持つ「富田地区」の景観構成上重要な建物である『茅の宿とみだ』を後世に残していくため、地域外からのサポートを受けながら活動を展開していきます。

【注釈】

※1：ランドデザインとは…長期的な視点で描かれる壮大な全体構想や計画

※2：フィールドミュージアムとは…特定の地域を対象とし、その土地の自然・歴史・文化・生活・技術などを「生きた博物館」として捉え、屋外に点在する資源を活かして、展示やイベント、調査研究などを行う屋外博物館

※3：デスティネーションとは…旅行者が「そこへ行きたい」と思われるような魅力的な「旅行先・観光地」を指す言葉

※4：ブラッシュアップとは…すでにあるものや現状を「より良くする」「磨きをかける」という意味を持つ言葉

※5：SDGsとは…「持続可能な開発目標」の略称で、2015年に国連で採択された、2030年までに「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい世界を目指す国際目標

※6：パートナーシップとは…個人または複数の組織が、対等な立場で共通の目標達成や相互の利益を追求するために協力・連携する関係

※7：恵那市歴史的風致維持向上計画とは…恵那市では、平成20年11月4日に施行された「地域における歴史的風致の維持向上に関する法律」（通称 歴史まちづくり法）に基づいて「恵那市歴史的風致維持向上計画」を策定し、平成23年2月3日付けで、国（国土交通省、文部科学省、農林水産省）に同計画の認定申請を行い、平成23年2月23日に認定を受けました。既存のものにさらに磨きをかけ、改良して質を高めること

※8：Green Destinationsとは…持続可能な観光地、そのビジネス、コミュニティを支援するためにオランダに設立された組織

※9：伝建地区とは…重要伝統的建造物群保存地区「恵那市岩村町本通り伝統的建造物群保存地区」の略

※10：まなぶ拠点施設とは…旧岩村振興事務所庁舎を「佐藤一斎學びのひろば」「恵那市中央図書館岩村分館」「（仮称）恵那市歴史博物館」として整備した施設全体の名称

【地域間連携での取り組み】

連携する地域	計画の柱(基本目標)及び施策の項目
☆ ☆ ☆ ☆ ☆	
取り組み内容	
◎現在検討中	

連携する地域	計画の柱(基本目標)及び施策の項目
☆ ☆ ☆	
取り組み内容	
◎現在検討中	

連携する地域	計画の柱(基本目標)	施策の項目
☆ ☆ ☆ ☆ ☆		
取り組み内容		
◎現在検討中		